

117. バリアフリーグルメサイト、バリアフリースイレマップの全国展開

一般社団法人スポットウォーキングさっぽろ

平間 栄一

概要

車椅子ユーザーの方の活躍の場を増やすこと、車椅子の方の外出のハードルを下げることを目的とし、プロジェクトがスタートしました。

全国を回っている中、コロナ禍ということもあり、共感を得ることはできましたが、なかなか動いてくださる就労支援施設を増やすことができずにいました。ですが、札幌で確立できた車椅子トイレマップとバリアフリーグルメサイトが、福岡、東京の一部に広まりました。

そんな中で感じたものが、共感してくれる当事者の方には、車椅子ユーザーだけではなく、様々な障害をお持ちの方もいらして活躍の場がない、特に、「障害者施設に行くまでもないが、一般企業でも働けない、狭間で苦しんでいる方」がものすごい多くいらっしゃるということ、コロナ禍で精神疾患の方、引きこもりの方がかなり増えたということでした。

「狭間で苦しんでいる方」の支援もしているうちに、そのような方（街で暮らす車椅子ユーザーよりもかなり数が多い）が通う施設を作り、コミュニティーを作っていくことで、結果的に車椅子ユーザーの方の活躍も増え、そして、施設運営を安定させていくことが、この助成金に頼ることなく、当事者の方の活躍の場を増やすことを「自走」させていくことだと気づきました。

この数年で施設運営をしたいという方が増え、当事者の方の居場所も増え、活躍の場も増えました。ITとサブカルチャーをメインとし、次世代につながる活動が、車椅子ユーザーの方にも精神疾患の方にも知的障害の人にもマッチするとわかり、全国に広がりを見せています。

この調子で各地で「自走」した施設で、ITとサブカルチャーを武器に活躍できる人が増え、車椅子トイレのサイト作りができる仲間を増やしていき、このサイトの充実だけでなく、当事者の活躍が止まらない状況を継続し、増やし続けていこうと思います。

背景および目的

車椅子ユーザーの数は約200万人とされています。(アクセシブルラボ調べ)

彼らの外出の大きなハードルである「トイレの場所」と「入れるお店」を見える化することで、外出する人を増やし、日常の景色の中に、障害を持った方が当たり前にいる状況を作る必要があります。

また、コロナ禍で障がい者数は人口の7.6%→9.2%に増えました。増えた大半は、引きこもりや発達障害、鬱、などの「目に見えない障害」です。

社会で挫折してしまった方、居場所のない方が、車椅子ユーザー含め年々増えています。

そのような方の居場所と活躍の機会を増やしていく必要があります。

方法

車椅子トイレマップ、バリアフリーのグルメサイトの充実。

→こちらは、「ビジネスとして企業が取り組む」ところまで持っていけなかったのが、広がりには鈍いものですが、逆に「ビジネスとして企業が取り組む」ことと社会貢献が掛け算できれば、コミュニティがどんどん広がることができました。

就労支援施設を増やすこと。

→就労支援施設として確立し、内容の充実したものを全国に広げることで一気にコミュニティが広がりました。

結果および考察

福祉事業をやりたい、どんな内容でやってるのかを教えてほしい、そういった声が全国各地に広がり、「就労継続支援 B 型事業所でのじりみ」として、2025 年 8 月現在で 48 箇所になりました。2022 年 2 月から 2 年半でこれだけ広がったなか、「ビジネスとして企業が取り組みたいもの」を作ることができたこと、また IT とサブカルチャーに特化し、「B 型就労支援施設に行きたくないが一般企業でも難しい」という「狭間」で苦しんでいる方達の就労意欲を引き出すことができ、活躍できる人をたくさん増やせたのが大きな成果だと思っています。

車椅子トイレマップの数（Google マップのピン打ち）は 1 万箇所を超え GPS 検索できる写真付きトイレ情報は 800 箇所になりました。

まとめ、今後の展望

車椅子ユーザーだけに限らず、様々な「生きづらさ」を抱える方の居場所と活躍の機会を増やすべく、車椅子トイレのマップとグルメサイトは引き続き全国に広め、就労支援施設作りも、助成金の力を借りずに継続して行くことができるようになりました。

このような助成金、補助金を起爆剤として、まちづくりが「自走していく」ことが、全国にもっと広がればいいと感じていると共に、三菱財団さんには大変感謝申し上げます。

(完)